

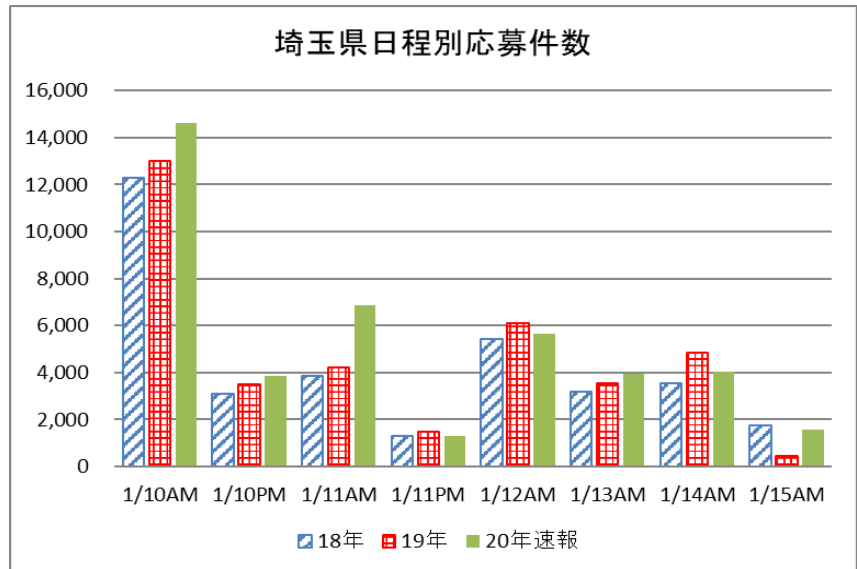
# 埼玉県私立中入試概況

## 1. 概況 応募者数・実受験者数とも大幅増加、合格ラインは緩和した学校も

埼玉県内の公立小6児童数は義務教育学校(2019年度から発足)を含めて約63,000名で昨年とほぼ同じです。県内の公立中高一貫校を含む中学入試の応募総数は、2月17日現在では約53,300件で、昨年の最終が約50,400件でしたから、2,900件の増加です。昨年も大きく増えていましたが、今年も中学受験が拡大しています。入試結果未公表の学校や3月になってから入試を実施する学校などもあるため、最終的な応募総数はさらに増える見込みです。実際の受

験者数も約43,300名と、昨年同時期より約700名増えていて、合格者数23,500名と、昨年同時期より2,800名増えています。この合格者数には、コース制実施校での上位コース入試で、入りやすいコースへのスライド合格や、特待入試での一般合格を含んでいない学校がありますから、「入学できる」という意味の合格者数はもっと多くなりますが、昨年も同じ基準で集計していますから、実際の受験者数が700名しか増えていないのに、合格者が2,800名も増えれば、全体に倍率が下がって入りやすい入試になります。

合格者増加に一番影響を与えたのは、応募総数日本一の栄東です。同校だけで1,800名以上合格者を増やしています。同校は東大特待Iを1月12日から11日に繰り上げましたが、この結果1月10日のA日程の受験生の学力層が少し変化したこと、後述のように東大IⅡは難化の傾向にあります。一般合格のA日程は合格ラインをやや下げたようなので、合格者が大きく増えました。ただ、合格者を増やしたのは同校だけでなく、他校にも事例が見られる現象で、もっとも目立ったのが栄東です。他都県の学校では、受験生が増えなくてもかえって合格者を絞ったり、受験者数の増加ほど合格者を増やさずにレベルアップを図った事例が見ら



れますが、埼玉県は中学受験生の拡大を、むしろ入学者増加に結び付けることで、私立中学をもっと身近な存在にしようと考えたことがわかります。

上のグラフは、県内中学入試の日程別の応募者数の合計を一昨年、昨年と比較したもので、今年速報値です。私立・公立一貫校合計です。本来は国立の埼玉大附属も含むところですが入試が2月1日でグラフには含まれていません。今年の応募総数では1月10日午前が14,000件を超えていて、全日程合計の四分の一を超える集中ぶりです。次は11日午前で、昨年より2,500件以上増加しました。今年トップ校栄東の東大Iが12日から11日に繰り上がったことや、公立一貫校の伊奈学園と市立浦和が移ったことで大きく増えました。12日午前には栄東、伊奈学園、市立浦和がなくなりましたが、開校2年目の大宮国際中等が移ってきたり、大宮開成をはじめ応募者が増えた学校が多くなったりして、減少を最小限に抑えた状況です。

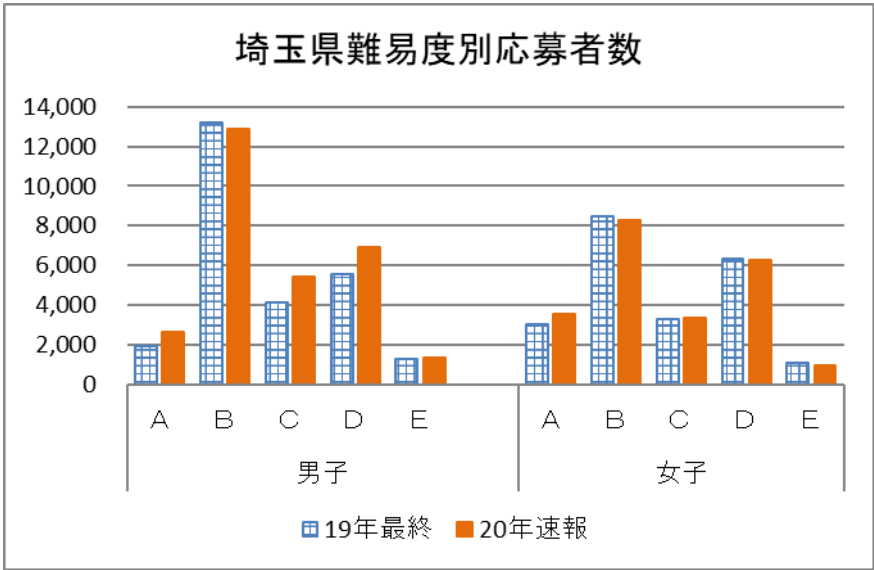
10日午後、13日午前、14日午前は、あまり応募者数は多くはありませんが、10日午後や13日午前は昨年に次ぐ応募者の増加です。

次に、難易度による志望校選択の傾向をみてみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に

上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。

男女ともBグループが最多ですが、男子では応募総数の4割以上を占めるのに対して、女子はそこまでの集中ではなく、男子のBグループ集中が目立ちます。ただ、男子はBグループが昨年より減っていて、CグループやDグループの増加が目立ちます。Aグループも増えていますが、最難関ですから狙う受験生はあまり多くありません。Eグループは、今年もあまり選ばれない状況です。

女子は応募総数自体が昨年とあまり変わっていません。県内の受験生は増えていますが、埼玉県で多くを占める他都県からの受験生のうち、東京都南部や神奈川県などからは、やはり遠いと感じている受験生が多いようで、地方寮制校の東京入試に流れます。そのため、「増えた」というほど増えていないのが今年の結果です。Bグループが少し減って、Aグループが増えていますが、地元の受験生を中心に、挑戦志向は少し強まったようです。なお、市立大宮国際中等、市立浦和高附属、伊奈学園は、公立一貫校のページをご覧ください。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で埼玉県私立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…浦和明の星・開智(先端特待)・栄東(東大)
- B…大宮開成(特待)・開智(先端・一貫)・栄東(難関大)・淑徳与野  
・城北埼玉(特待)・立教新座・開智未来(T 未来)
- C…大妻嵐山(奨学)・大宮開成(英数特科)・開智未来(未来)  
・埼玉栄(医学・難関大)・埼玉大附属・昌平(T)・城北埼玉(一般)  
・西武台新座(特待)・西武文理(特選)・星野学園(理数)
- D…青学浦和ルーテル・浦和実業・大妻嵐山(一般)・開智未来(開智)  
・春日部共栄・埼玉栄(進学)・狭山ヶ丘高附属・城西川越(特選)  
・昌平(一般)・西武文理(一貫)・西武台新座(特待以外)  
・聖望学園(特待)・東京農大第三(特待)・獨協埼玉・武南  
・星野学園(進学・総合)・細田学園(特待)・本庄東高附属
- E…大妻嵐山(まなび力・未来力)・国際学院・埼玉平成・自由の森学園  
・秀明・城西川越(一貫)・聖望学園(一般)・東京成徳大深谷  
・東京農大第三(一般)・細田学園(一般)・本庄第一

## 2. さいたま市・その周辺地域

今年も応募者数日本一の栄東から。同校は東大選抜Iを1月12日から11日に前倒したほか、東大選抜IIで昨年実施した算数1科入試選択を東大選抜Iでも実施しました。各回次合計の応募者数は、昨年より少し増えて1万1,857件と、今年も1万件の大台が続いています。もちろん日本一です。同校は1月10日のA日程だけでも帰国生を含めて6,220名の応募者数、実受験者数も6,118名で、こちらも1回の入試としては日本一です。合格最低点は回次によって細かな上下が

ありますが、16日の東大選抜Ⅱの算数1科、18日の難関大Bは上昇が目立っていて、出題の難度もあります。少し難化したようです。かつては遅い日程だと少し合格しやすかったのですが、そのような状況は見られなくなりました。近年は教育の中身の強化に取り組んでいて、都内や神奈川の受験生から見ると、「単なる事前のお試し受験」から「合格したら入学も前向きに考える」に評価が変わりつつあるからでしょう。

栄東のライバル校、開智は先端A・B入試の日程を昨年に続いて繰り上げ、一貫2回を繰り下げました。各回次合計の応募者数は減っていますが、栄東が東大Iを1月11日に繰り上げて先端特待と競合したことや、12日が一貫2回から先端Aに変わったことで、自信のない受験生が他校に流れたことなどが理由です。13日の先端Bは合格最低点が下がっていて、少し入りやすくなったようですが、それ以外は各回次とも概ね昨年並みで、難度に変化は見られませんでした。大宮開成は、昨年は入りやすいコースの特進の募集を停止して、コースを英数特科に統一、今年2月の最終回を廃止して入試の回数を減らしました。どちらも受験生に敬遠傾向が生まれる施策で、通常なら応募者の減少を覚悟でレベルアップのために実施するものですが、同校は昨年、今年と応募者の増加が続き、特に今年は大きく増えました。このことは同校に期待する受験生が多いことの証です。1月10日・14日の1・2回の合格最低点は上がっていて、同校受験生の学力層が高くなっていることがわかります。12日の特待選抜は逆に下がっていますが、特待選抜と銘打った関係上、出題が難化したのでしょう。

浦和ルーテルは青山学院大学の系属校となり、校名も「青山学院大学系属浦和ルーテル学院」に変更します。基本的に小中高一貫校のため、入試も小規模で2016年までは1月10日には入試を設定しないなど、県内他校とは一線を画していましたが、一昨年からは英語入試や自己アピール入試、適性検査型入試も新設するようになりました。こうした積極策で昨年も応募者は増えていましたが、受験生・保護者への浸透はあまり大きくはなく、小規模な入試が続いていました。それが青山学院大学の系属化で、一気に大幅な応募者の増加となっています。もちろん、栄東の1万名超えは別としても、県内の多くの学校が1,000名以上の応募者がある中ではまだまだ少ない応募者数ですが、青山

学院大学系属化が受験生に魅力的に映りました。併願受験生も多かったようですが、少し難化したようです。

栄東の系列校、埼玉栄は、1月11日午後の医学・難関大クラス入試を廃止しましたが、各回次合計の応募者数は大きく増えました。一昨年や昨年少し増えていましたが、あまり目立つほどではなかったのに対して、今年は増加が目立ちます。各回次とも増えていますが、増加の中心は1月11日午前以降の医学・難関大クラス入試で、受験生の上位コース志向が表れています。合格最低点は、11日午前の医学・難関大クラスが少し上がっていますが、他の回次は概ね昨年並みでした。

浦和実業は英語入試の日程を変更したほか、2月の最終回の入試を廃止しました。入試回数を減らしたのに各回次合計の応募者数は昨年に続いて増えています。各回次とも応募者は増えていますが、男子の増加よりも女子が目立っていて、女子の人气が上がっています。合格最低点は全体に上がっていて、やや難化傾向になっていて、同校受験生の学力層がやや上がっているようです。これも人気上昇の影響です。武南は一旦4科から2科に変更した1月12日の2回を4科に戻し、15日の3回を18日に移しました。同校は京浜東北線沿線では一番都内に近い立地ですが、都内の受験生の併願のアプローチが少なく、各回次合計の応募者数は小規模でしたが、昨年適性検査型を新設して都内生の目が向き始めたようで、応募者は増加、今年も増加が続いて小規模を脱しました。本稿執筆時点では合格最低点が未公表ですが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

国際学院は入試日程ごとの入試科目を一部変更しています。小規模な入試の学校で、今年もその点は変わりません。各回次とも難度は昨年とあまり変わっていません。なお、国立の埼玉大附属は本稿執筆時点で応募者数等が未公表です。

女子校では、浦和明の星は、1月14日の1回の応募者は昨年に続いて増加、2月4日の2回はやはり昨年同様少し減りました。2月の入試は都内校を選ぶ受験生が増えているのでしょう。2回は合格者を絞っていますが、合格最低点は1・2回とも少し下がっています。出題がやや難化したのかもしれませんが。淑徳与野は、一昨年は1月13日の1回の応募者数が前年並み、2月4日の2回は大きく減りましたが、昨年は1・2回とも

大きく増加、今年は1回が増加、2回は昨年並みでした。実際の受験者数、合格者数も同じ傾向です。合格最低点は1・2回とも昨年並みで、難度に特に変化は見られません。

### 3. 東武東上線南部・西武線方面

男子校から見ていきます。城西川越は、3回の日程を変更しました。一昨年は各回次合計の応募者が減少、昨年、今年と増加して人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は上下いろいろありますが、概ね難度は昨年並み、ただし2月の4回はやや難化したようです。城北埼玉は各回次合計で昨年並みの応募者数でした。回次ごとでは1月10日午後の特待が増加、12日・15日の1・2回がやや減っています。合格最低点は逆に特待入試が少し下がっていますが、出題が難しかったのでしょうか。1・2回は昨年並み、18日の3回は少し上がっています。

立教新座は、一昨年は1月25日の1回の応募者がやや増えていて、2月3日の2回は少し減り、昨年は帰国生も含め2回とも増加、今年は1回が増加、帰国と2回は少し減っています。合格者数は各回次合計で昨年並み、例年通り補欠が出ていて、合格最低点も昨年並みのため、難度はあまり変わらない結果でした。

男女校では、西武文理は昨年1教科入試の算数・英語の日程を分割したものを今年は再度統合、2月の総合選択入試を思考力型に変更しました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年に続いて今年も増加しています。一時期人気低迷しましたが、回復してきました。受験生が増えた分、合格者も増えていることもあって、難度面では特選・一貫の両コースの各回次とも昨年とあまり変わっていないようです。星野学園は理数選抜と進学がそれぞれ2回、2コース合同の総合選抜入試1回の5回入試です。一昨年、昨年と5回とも応募者が増えていましたが、今年は各回次とも昨年並みで、上がっていた人気が一段落したようです。もともと男子よりも女子の応募者が多い学校ですが、この点も変化はありません。合格最低点も各回次とも昨年並みで、難度にも変化は見られませんでした。

狭山ヶ丘高付属は各回とも4科から2科4科選択に変更しました。一昨年、昨年と、各回次とも応募者が少し減っていましたが、今年は回次ごとに細かい増減はあるものの、合計では昨年並みで減少傾向に歯止

めがかかりました。昨年春に、中高一貫1期生が卒業して大学合格実績が出たことも歯止めにつながったようです。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は少し増えています。2科判定が加わった分、少し入りやすくなったかもしれません。西武台新座は特選・特進の2コース制で、それぞれ2回の入試と、2コース合わせた特選特進チャレンジ入試、特待入試の計6回の入試があります。各回次合計の応募者数は、昨年は減りましたが、今年は少し増えています。回次ごとでは1月10日午前の特進入試、10日午後の特進入試、11日午後の特待入試が増加の中心で、志望順位が高い受験生と他校併願前提の受験生のどちらも増えたようです。合格最低点は10日午後の特進入試1回と14日午前の同2回でそれぞれ2科が少し上がっていて、他校併願受験生の学力層がやや上がっているようです。他の回次は昨年並みで、難度に変化は見られません。

聖望学園は、1月12日の英語入試の時間帯変更や、2月の入試を4日から5日に移すなどの変更がありました。昨年、プレゼン入試を新設するなど多様化に踏み切り、各回次合計の応募者は減りましたが実際の受験者数はかえって増える結果でした。今年も応募者数、実際の受験者数とも少し減っています。もともと不合格者数はあまり多くない入試でしたので、各回次の難度はあまり変わっていません。昨年新設開校した細田学園は、各回次合計の応募者が昨年よりも約100名増加し、学校の認知度が上がりつつあります。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点はやや下がっている回次もありますが、出題難度の影響もあり、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

全寮制の秀明は、入試日程などに一部変更がありました。今年も応募者が増えています。全寮制という性格上、小規模な入試でした。独特な教育方針の自由の森学園は、入試日程などに一部変更がありました。本稿執筆時点でまだ終わっていない入試がありますが各回次合計の応募者数はやや減っていて、今年も小規模な入試で、難度にも変化は見られませんでした。

### 4. 東武スカイツリーライン・伊勢崎線・日光線方面

獨協埼玉は一昨年まで各回次合計の応募者が少しずつ減っていましたが、昨年は反転して各回次とも増えていて、今年もわずかですが増えています。以前から

探究的な取り組みにも力を入れていることが受験生に支持されているのでしょう。実際の受験者数は応募者数よりも増えていて、欠席が減っています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。春日部共栄はGE・GSの2コース制をとっていましたが、一昨年から上位のGEコースのみの募集に限定しています。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや減っていて、昨年は増加、今年は少し減って隔年現象が見られます。実際の受験者数、合格者数も少し減っていますが、合格最低点は1月11日午後の2回午後と2月3日午前の4回が昨年並み、他の回次は下がっていて、少し入りやすくなったようです。

昌平は国際バカロレアの認定校で、進学校としてばかりでなく、これに期待する受験生も見られます。各回次合計の応募者数は増加が続いていて、今年も少し増えました。どこかの回次が集中的に増えたわけではなく、どの回次も少しずつ増えています。こうした増え方は人気は土台の部分から上がっていることを示していますが、強いて言えば男子の増加が目立ちました。合格最低点は2月5日の最終回で上がって難化したほか、他の回次も昨年並みか、上がっているものも見られ、特に4科は上がっている回次が多くなっています。やや難化しているかもしれません。

開智未来は一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が増えていましたが、今年はいくつか減っています。1月10日午前午後の探究1回、一般1回は目立ちませんが、11日以降の各回次で女子が他校に流れたようです。昨年は女子の増加が目立ちましたので、隔年現象の面はあります。合格最低点は回次や合格種別によって細かい上下がありますが、1月10日の入試は午前午後とも総じて昨年並み、11日以降は、少し下がったものも見られました。

## 5. 東上線北部・高崎線方面

大妻嵐山は奨学生入試を1月11日午前に移行したり、適性検査型を取りやめるなどの変更がありました。このところ毎年の入試内容の変更が活発です。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年に続いての増加で人気が上がっていて、特に1月10日午前午後の一般1・2回が目立ちます。この2回の入試は合格最低点の上昇も目立っていて、やや難化したかもしれません。また、

23日の一般3回も、応募者・実受験者は減ったものの合格最低点は上がっています。奨学生入試は昨年とあまり変わらず、他の回次はプログラミングなどなので比較できませんが、総じてやや難化傾向と言えるようです。

男女校では東京農大第三が、1月10日午後の2回特待入試で、総合理科・ことば力(資料の読み取り、表現など)に加えて、社会科分野の「世界と日本」を追加しました。また、曜日の関係で4回の入試日程を1日前倒しにしています。各回次合計の応募者数は、一昨年は少し減りましたが、昨年に続いて今年も増えていきます。新設の「世界と日本」は、総合理科やことばの力ほどの応募者数ではありませんでしたが、新規科目の不安感から従来の科目を選んだ受験生も少なくなかったようです。実際の受験者数は増加、合格者も少し増えていますが、難度面はあまり変わっていないようです。埼玉平成は通常の教科の入試だけでなく、実技型の英語や科学の入試も行っている学校ですが、やはり受験生の多くは新タイプ入試よりも教科型の入試を選んでいきます。回次や男女別で細かな応募者の動きは見られましたが、各回次合計では昨年並みの応募者数で、合格最低点もあまり変わっていません。

高崎線方面では、本庄東高附属が曜日の関係で今年も3回の入試日程を変更しています。中学受験がまだ広がっていない地域事情もあって、昨年は各回次とも応募者が少し減っていましたが、今年はいくつか増えています。合格最低点は各回次とも下がっていて、昨年とは逆の動きです。昨年は少し得点しやすい出題だったものを、今年は難化させたのかもしれない。2016年に開校した本庄第一も曜日の関係で一部の入試日程を変更しました。まだ中高一貫生が高校を卒業していないことから、今年も小規模な入試でした。東京成徳大深谷も、最終回の日程・科目変更がありました。やはり中学受験がまだまだ広がっていない地域事情もあって、今年も小規模な入試でした。

☆